

平成28年度第2回林業研究所試験研究評価委員会評価結果

試験研究評価委員会における評価委員（学識経験者2名、林業経営者1名、建築家1名）の事後評価結果の概要は以下のとおりです。

●搬出間伐における最適な集材機械の選択に関する研究

評価平均点 14.75 点

【評価項目】

目的の達成度： ある程度目標を達成した(3)、あまり目標を達成していない(1)

得られた成果： ある程度得られた(3)、あまり得られていない(1)

成果の発展性： 大いに普及させる(1)、ある程度普及させる(2)、あまり普及させるべきでない(1)

今後の進め方： 発展させた方がよい(4)

【その他特記事項】

- ・もう少し違うやり方で、本来の集材効率を調べると良い。特にフォワーダのための作業道と効率について研究が必要。
- ・得られた成果をもとに実際の値と比較検討し、さらに正確な予測値が得られるようになることを期待する。
- ・コスト予測ソフトの利用者がより簡単に利用できるようブラッシュ・アップを期待する。

●再造林推進に向けた皆伐・植栽一貫システムに関する研究

評価平均点 16.00 点

【評価項目】

目的の達成度： ある程度目標を達成した(4)

得られた成果： ある程度得られた(4)

成果の発展性： ある程度普及させる(4)

今後の進め方： 発展させた方がよい(4)

【その他特記事項】

- ・日報調査である程度の成果は出ている。皆伐時に枝の搬出、柵資材の運搬をすると良いということを PR してほしい。
- ・有効な成果とするために、さらにある程度の事例調査を進める必要がある。
- ・どこまで明らかにしたら本課題の目標達成になるのかやや理解しきれなかった。

●伐採跡地における広葉樹の育成技術の開発

評価平均点 15.50 点

【評価項目】

目的の達成度： ある程度目標を達成した(3)、あまり目標を達成していない(1)

得られた成果： ある程度得られた(3)、あまり得られていない(1)

成果の発展性： 大いに普及させる(1)、ある程度普及させる(3)

今後の進め方： 関連研究を積極的に発展させる(1)、発展させた方がよい(3)

【その他特記事項】

- ・安易な天然更新に走らないように普及してほしい。
- ・天然更新が有効なのか否かを判断するためにも、ある程度の成果を出すことが必要。
- ・充実したデータセットの取得に敬意を表する。さらなるデータ解析に期待する。

●新植地におけるニホンジカの効率的な捕獲技術の開発

評価平均点 17.25 点

【評価項目】

目的の達成度： ある程度目標を達成した(4)

得られた成果： 期待以上に得られた(1)、ある程度得られた(3)

成果の発展性： 大いに普及させる(2)、ある程度普及させる(2)

今後の進め方： 関連研究を積極的に発展させる(2)、発展させた方がよい(2)、

【その他特記事項】

- ・林業の課題は極論すれば木材価格の安さとシカに尽きる。普及しやすい方法を見出してほしい。
- ・囲いワナの捕獲が効果ありとのことなので、より安価なシステム開発を期待する。
- ・質疑応答でよく理解できた。

●県産材を活用した耐久型フローリングの開発

評価平均点 12.50 点

【評価項目】

目的の達成度： ある程度目標を達成した(1)、あまり目標を達成していない(3)

得られた成果： ある程度得られた(2)、あまり得られていない(2)

成果の発展性： 大いに普及させる(1)、ある程度普及させる(1)、あまり普及させるべきでない(2)

今後の進め方： 関連研究を積極的に発展させる(1)、発展させた方がよい(2)、
発展させない方がよい(1)

【その他特記事項】

- ・今ある技術との比較、広葉樹との比較をしっかりとってほしい。塗装で維持するのは難しいので、他の方法も検討してはどうか。
- ・目標があまり見えない。すでに市販されている圧縮材と差別化するのが難しいと思う。
- ・ヒノキ床材の能力が広葉樹やその他の床材と比較して相対的にわかるチャート表のようなものを作成してほしい。ヒノキ材利用の開拓に期待する。